

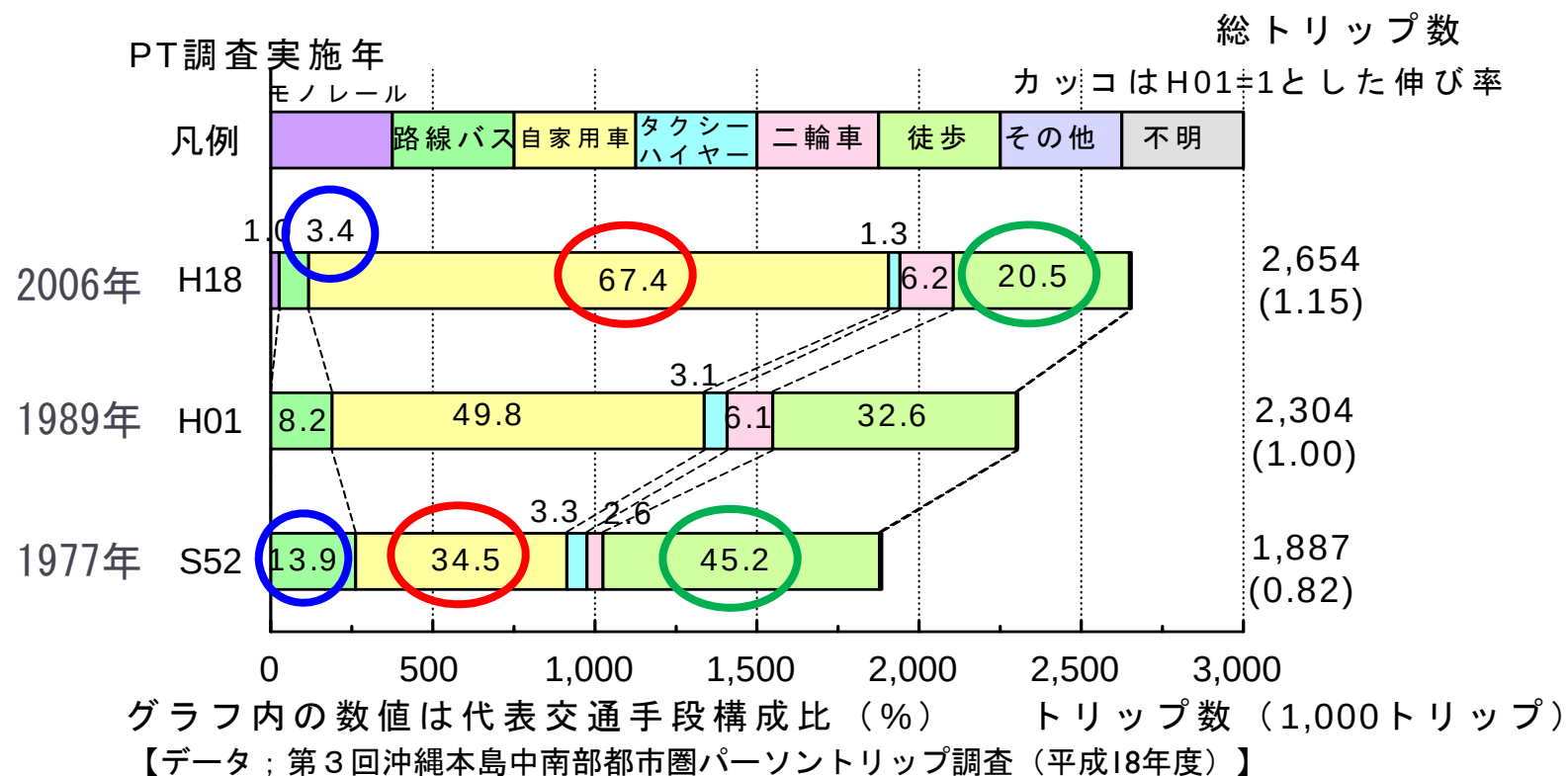


那覇市の交通について

那覇市 都市計画課

那覇市の交通の現状

沖縄本島中南部都市圏（読谷村・うるま市以南）の交通分担率の推移



・ 自家用車の利用率は1977年34%→2006年67%に**倍増**

・ 路線バスの利用率は1977年14%→2006年3.4%と**1/4に減少**

那覇市の交通の現状

1 / 4 まで減少

◆市内を路線バスで移動する人の割合はS52年～H18年の間で1/4まで減少しています。



約 2 倍に増加

◆市内を自家用車で移動する人（1日あたり）はS52年～H18年の間で、約2倍に増加（92%増加）しました。



時速13 km

◆那覇市内における朝タピーク時の走行速度は時速13キロで、全国の県庁所在地の中でワースト1位（H22年時点）となっています。

一般的な自転車と同じくらいのスピード

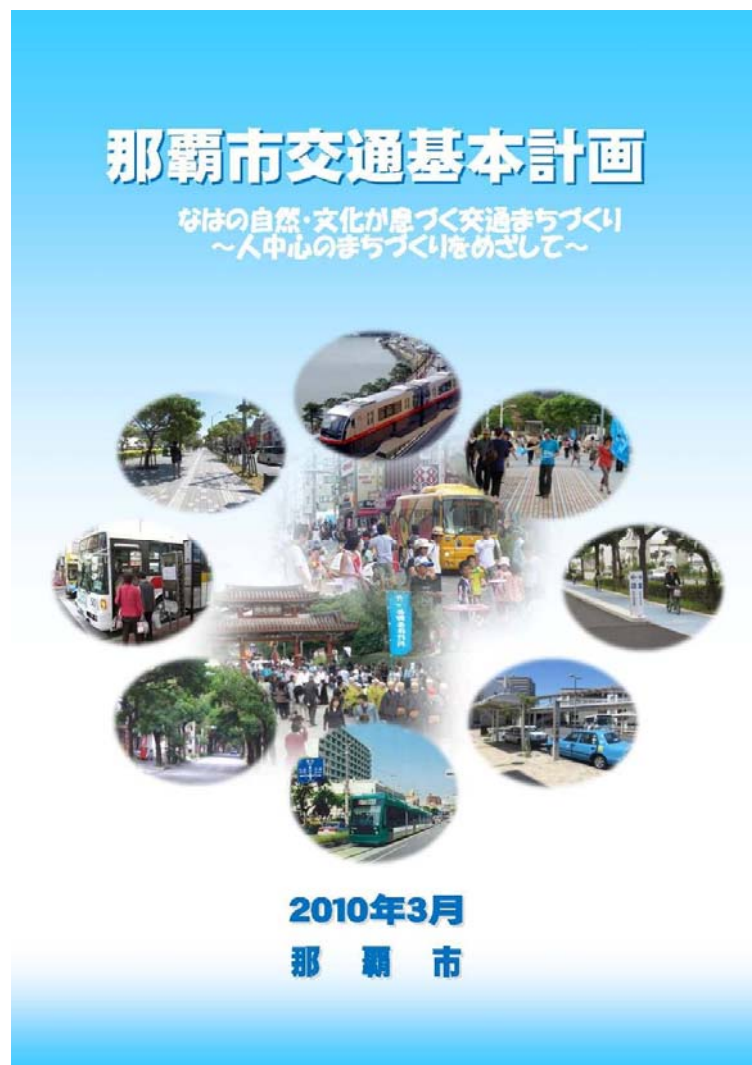


約 9 割は一人乗り

◆朝の8時台（通勤のピーク時）において、通勤目的で那覇市を走る自動車の約9割は、同乗者を伴わない「一人乗り自動車」となっています。



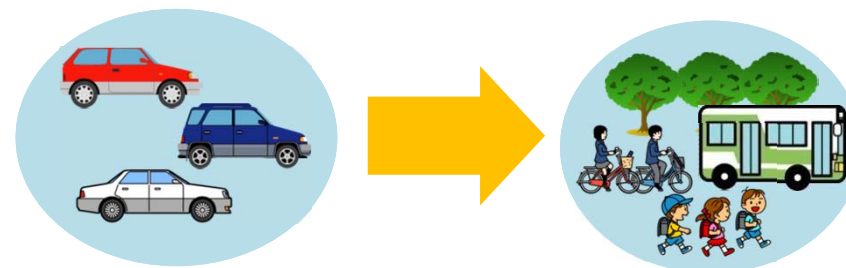
那覇市交通基本計画



那覇市の交通に特化した、概ね20年後の
2030年を目標年次とした長期的な計画

《基本理念》

なはの自然・文化が息づく交通まちづくり
~人中心のまちづくりをめざして~

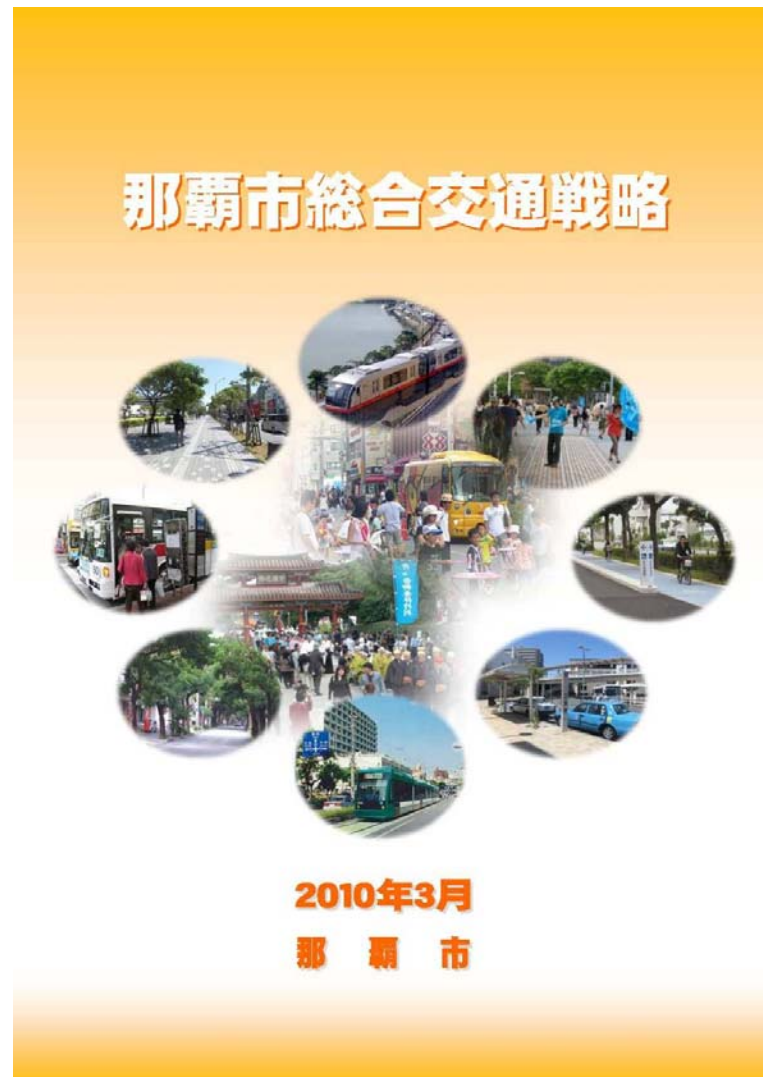


『車中心のまち』から『人中心のまち』へ

《基本目標》

『誰もが移動しやすいまちをつくる』

那覇市総合交通戦略



交通基本計画で掲げた施策を、効率的かつ効果的に推進するため、
具体的な施策パッケージや、地域ごとの施策、スケジュール、目標値、役割分担、推進体制などを盛り込み、関係機関の総力による取り組みを示したものの。

那覇市都市交通協議会

那覇市都市交通協議会（協議会・幹事会）を年2回開催

■協議会における主な内容

モデル性の高い基幹的公共交通の導入に向けた取組み（実証実験）

バス利用環境の向上・充実にに向けた取組み（バス停上屋、交通結節点）

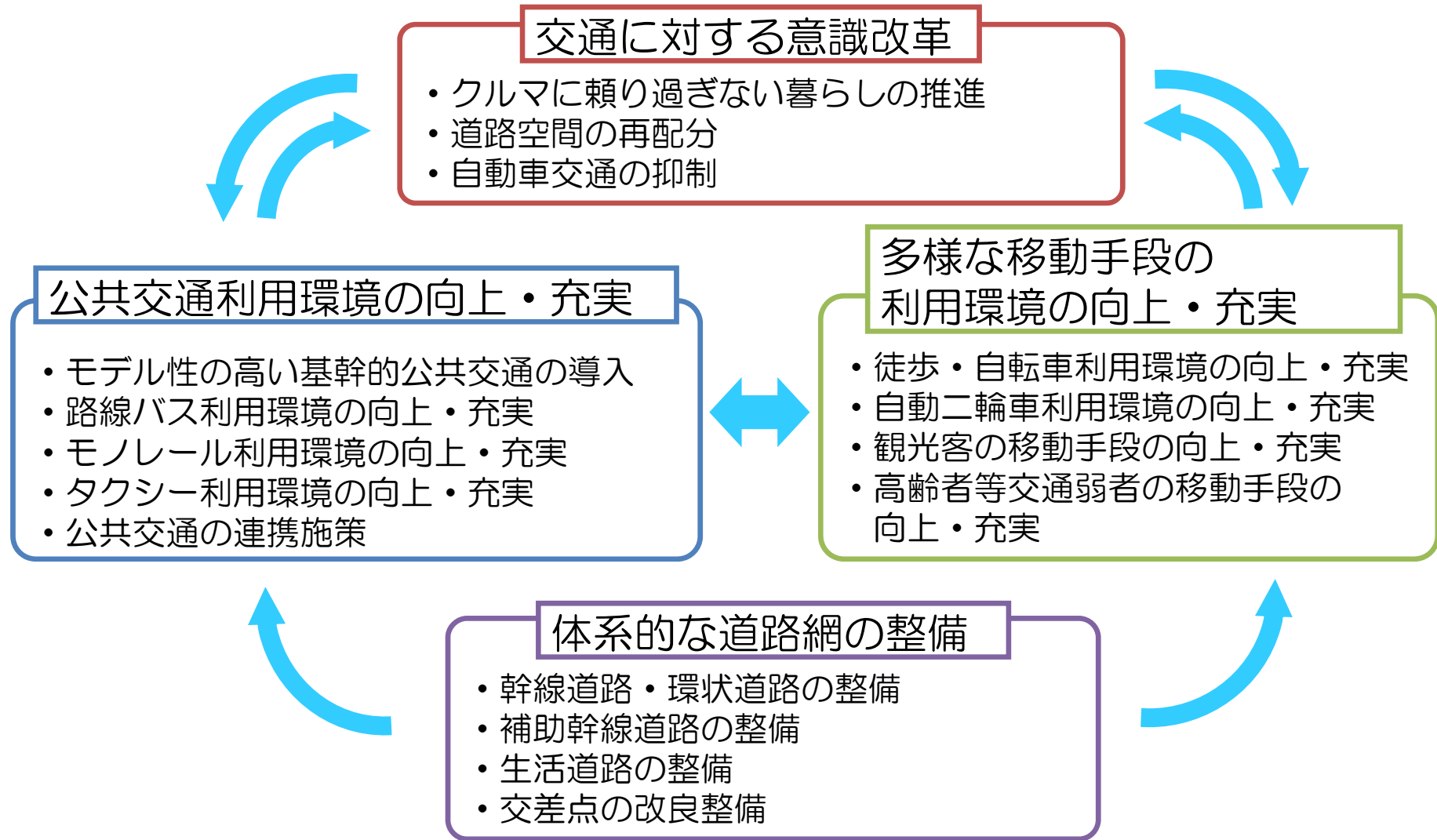
交通に対する意識改革の取組み（カーフリーデー、公共交通ハンドブック）

自転車など、多様な移動手段の利用環境の向上・充実にに向けた取組み

交通基本計画に位置づけられた各施策の進捗を確認し、進め方や内容について協議会において意見交換しながら進めている。



交通基本計画の施策の方向性



交通に対する意識改革

公共交通の利用環境を向上させるうえで必要な定時定速のためのバスレーン規制、高頻度を維持するための安定した利用者の確保のため、交通に対する意識改革が必要です。



カーフリーデーは「車に頼りすぎない生活」を社会啓発するイベントです。毎年国際通りのトランジットモールを「車の脅威から解放された空間」として、交通をテーマに様々なイベントを通して、交通と環境について考えるきっかけ作りを行っています。



車に頼りすぎない暮らしの啓発活動や公共交通ハンドブックの配布、学生などを対象にしたモビリティマネジメント教育を行うことで、無駄な車利用を減らし、渋滞の緩和、公共交通の利便性向上、誰もが移動しやすいまちの実現へと、正のスパイラルへと改善を促していきます。



2012 なはモビリティウィーク&カーフリーデー



イベント会場の様子(全景)
イベント会場の「さいおんスクエア」は沖縄都市モノレール牧志駅に直結し、前面にバス停を備える交通結節点である。



なはまちなかウォーク
ガイドの案内のもと、中心市街地をまち歩きした。多くの家族ずれで賑わった。



セグウェイ試乗会
排気ガスを出さない、省スペース。未来の乗り物セグウェイの試乗会



ポスターコンクール表彰式
子供の取組を表彰することで、家族も一緒に考えるきっかけとなる。

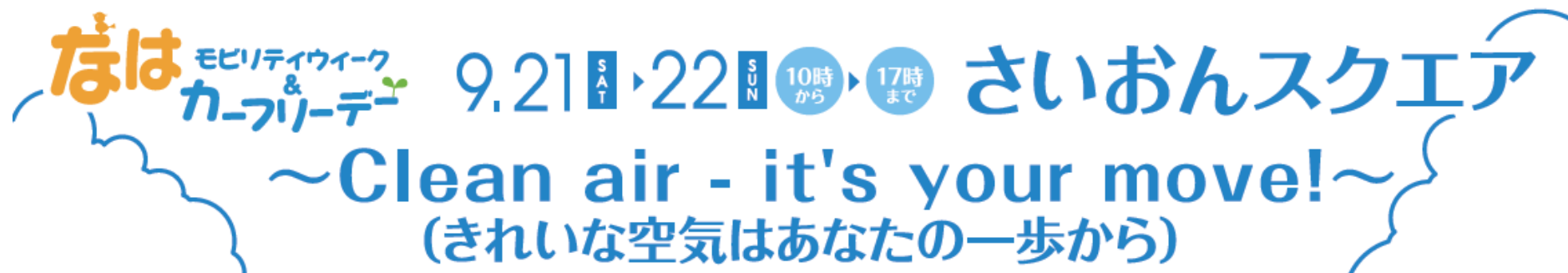


自転車まちめぐり
自転車の利便性を知ってもらい、利用環境を考えるきっかけ作りを行った。



舞台イベントの様子
人を呼び込み、まちに賑わいをもたらすことを目的にエイサーやダンス、歌などを行った。

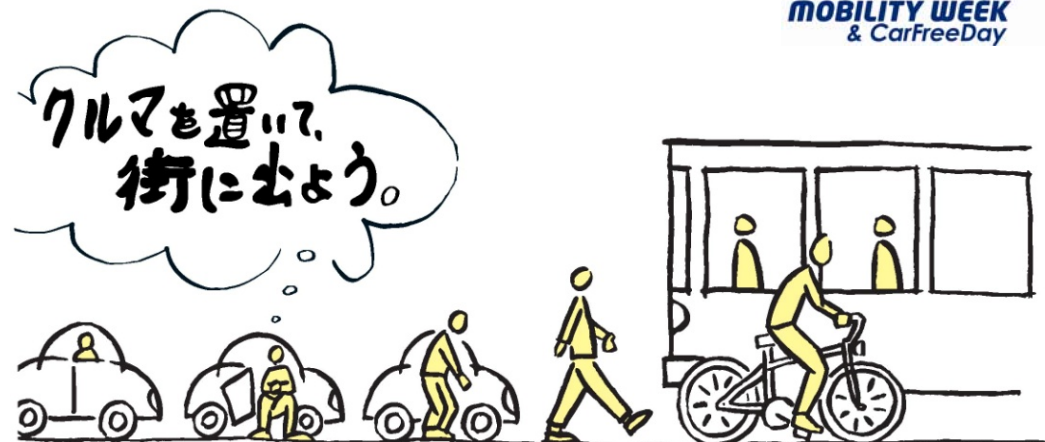
2013 なはモビリティウィーク&カーフリーデー



カーフリー宣言しませんか？

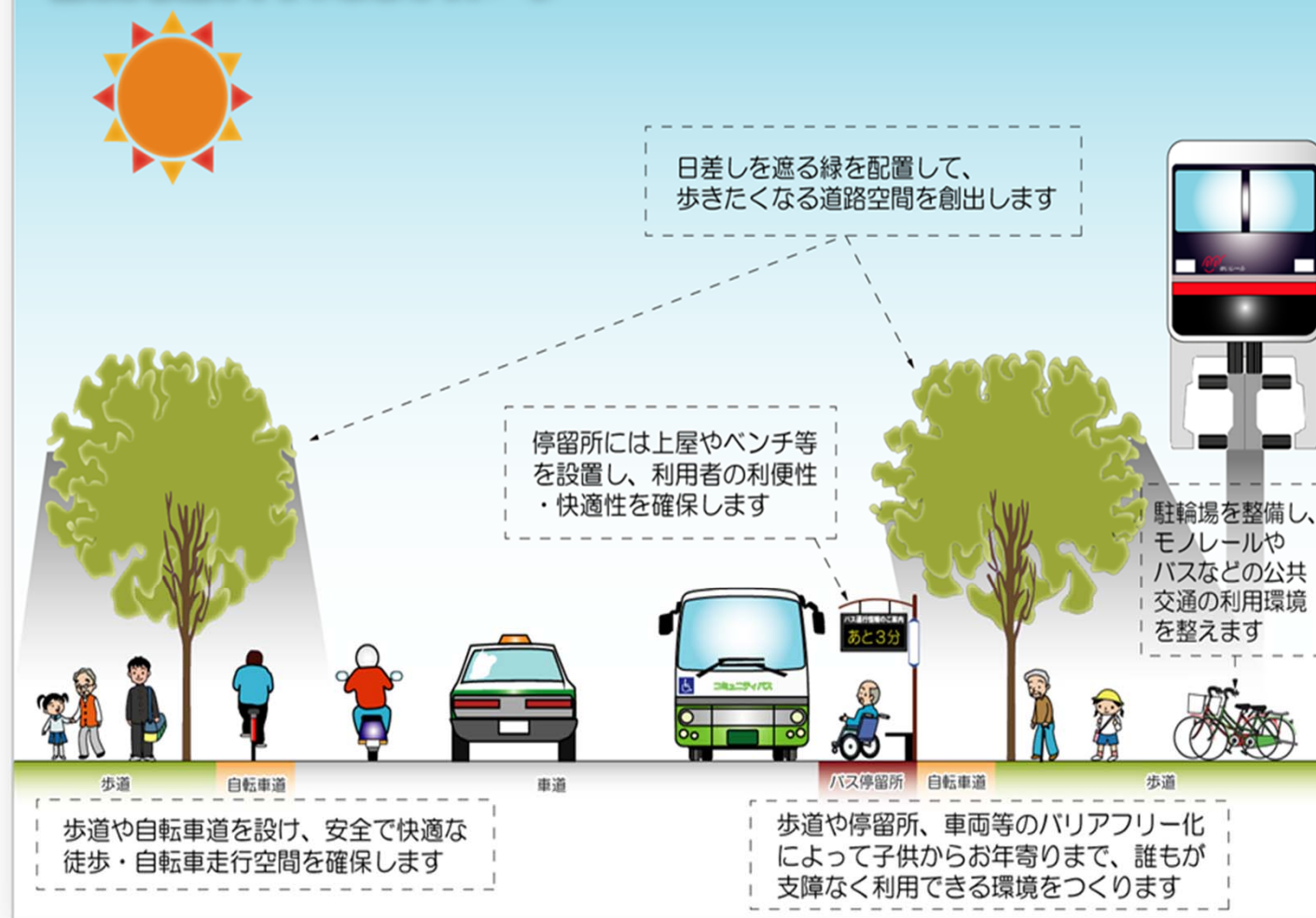
9月16日～22日の7日間、車に頼りすぎない生活を心がけてもらう「カーフリー宣言者」を募集しています。

抽選で「ゆいレール一日乗車券」が当たります。



誰もが移動しやすいまち

誰もが移動しやすいまちのイメージ



-
- ▶ ご清聴どうもありがとうございました。